

SDGs スタートアップ研究分科会

アドバンスコース第1回情報交換会（キックオフ）実施報告

2021年7月31日

PMI 日本支部

SDGs スタートアップ研究分科会

アドバンスコース・リーダー 歳弘 浩三

去る7月19日(金)、SDGs スタートアップ研究分科会のアドバンスコース第1回情報交換会（キックオフ）を開催しましたのでご報告いたします。

アジェンダは次の通りです。

1. 2021年度SDGs スタートアップ研究分科会の概要
2. アドバンスコースの運営について
3. アドバンスコース参加団体の情報交換
 - a. 舞鶴工業高等専門学校（舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム）
 - b. 株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム）
 - c. 有限会社ウイルパワー（循環ビジネスの社会的役割の実施）
 - d. 高野山真言宗大師 和歌山教区＜三密教会＞（SDGs 理念共有のハウスシェア、持続可能なくお家＞活用）
4. SDGs 最新動向

各項目の概要をお伝えします。

1. 2021年度SDGs スタートアップ研究分科会の概要

・SDGs スタートアップ研究分科会

PMI 日本支部は、SDGs 達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発・普及を図るために、2019年10月から内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に「SDGs スタートアップ研究分科会」を設けています。

本年度は、昨年度に引き続きSDGs プロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「ベーシックコース」と、実際に事業として行っているSDGs プロジェクトを支援する「アドバンスコース」の二本立てで実施いたします。

「ベーシックコース」については本年も10月開始として、すでに参加団体の募集を開始しています。詳細は次のウェブサイトをご覧ください。

https://www.pmi-japan.org/news/info/2021_06_09_sdgs20210609.php

アドバンスコースの開催

本年度のアドバンスコースは、原則として 2019 年度、2020 年度のベーシックコースに参加された団体で実際に実行されている SDG プロジェクトを対象としています。すでに SDGs 事業を開始していて、基本的なプロジェクトマネジメントの知識をお持ちの場合は、途中参加もご相談に応じます。

図 1 にアドバンスコースの位置づけ、スケジュールを示します。

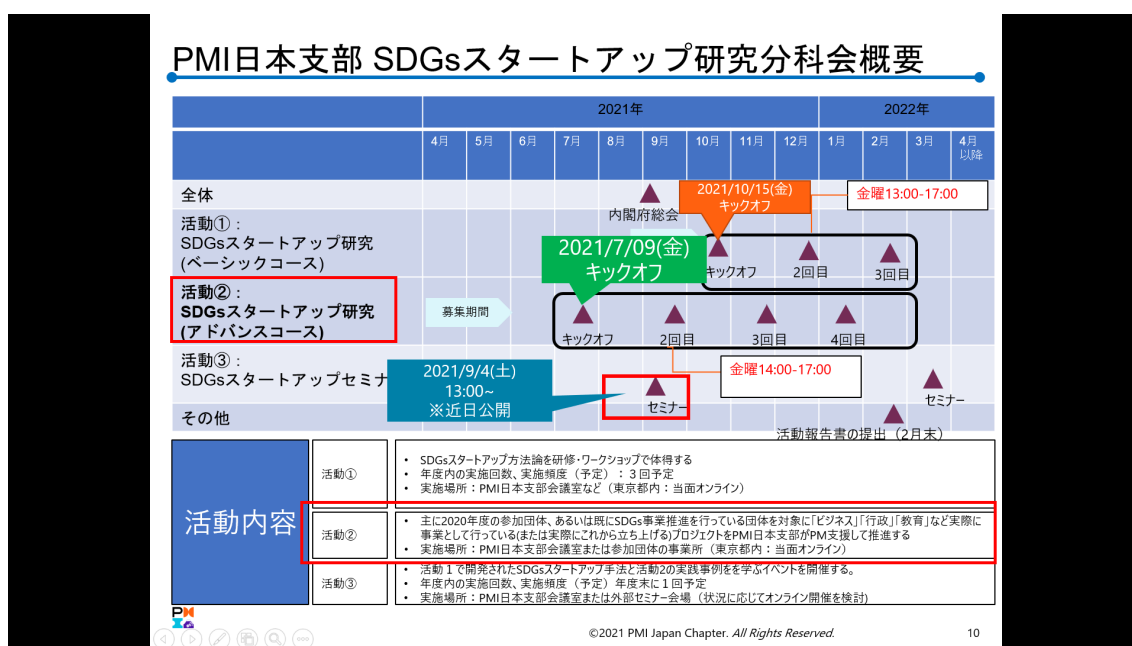


図 1 アドバンスコースのスケジュール、活動内容

2. アドバンスコースの運営について

アドバンスコースは、「参加団体の SDGs 事業プロジェクトが順調に進められていること。」とともに、「SDGs スタートアップ手法を活用し、ゴールの設定、見直し、推進上の課題、リスクなどに対して PM 手法を活用し支援する。」を目的としています。

スケジュール

参加団体ごとに本年 4 月から準備段階の活動を開始しており、アドバンスコースへの参加団体との情報交換会を今回のキックオフを含め年 4 回行います。

SDGs 事業プロジェクトのテーマ、目標や方針は各団体で異なりますので、情報交換会では各団体の活動テーマ、活動内容を可能な範囲で共有し、団体間でのコミュニケーションを活発化し相互連携や共通課題の検討などを行える場を提供していきます。

プログラムマネジメント

各団体の SDGs 事業は単一のプロジェクトではなく、複数のプロジェクトが連携することが多いので、プログラムマネジメントの手法で進めます。

依存関係のあるプロジェクト間のコミュニケーションや情報連携、リスクマネジメントなどの支援を行います。

3 アドバンスコース参加団体の情報交換

現在アドバンスコースに参加されているのは4団体です。

4団体に SDGs 取組み事例を紹介していただきました。

a. 舞鶴工業高等専門学校（舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム）

（報告：舞鶴工業高等専門学校 校長 内海康雄氏）

・舞鶴市では、近年小規模河川の氾濫により道路の冠水、住宅の浸水被害が多発しています。その対応策として、降水量と河川水位の関係を解明して数時間後の水位予測・浸水危険度情報を配信するシステムの構築に取り組んでいます。

これまでに舞鶴市志楽川に水位計を設置して計測を始めており、ドローン測量により地形や河川構造物の影響を検討するとともに、氾濫解析ソフトウェアを利用して洪水や氾濫予測を行います。

・地域ニーズに基づく SDGs 達成に向けたプログラムで、舞鶴高専、舞鶴市、舞鶴市民の協働プロジェクトで、PMI 日本支部も協賛し、KDDI、オムロンなど企業、大学、行政機関などの多くの協力を得て進められています。

・これまでの取り組みで、SDGs スタートアップ手法を活用し、リーンキャンパスは役に立つ。ソフトウェアに限らず、様々な事業の構想をまとめられる。

実現計画を策定するためにロジックモデルが有効。優先課題を決定し、ビジョンからバックキャストで中間成果に展開する。事業活動のアウトプットと関連付けて、実現のシナリオを確認する。など SDGs スタートアップ手法の有効性が評価されています。

・自治体に現状認識と将来構想があることが必要。小規模自治体がすべての課題に取り組み、課題解決のプロジェクトの立案・実施ができるのか？自治体間の連携が必要などの課題も検討されています。

b. 株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム [river]）

（報告：株式会社カルティブ 企業版ふるさと納税コンサルタント 小坪拓也氏）

[river (リバー)]という名称で、「企業版ふるさと納税の活用を目指す自治体と企業が、制度利用のためのコーディネートを得られるサービス」を提供しています。

「企業と地方を繋ぎ、双方の課題解決への支援をすること」をミッションとし、レジリエントで持続可能な社会ができていること」がビジョンで2020年4月に大幅に改正された「企業版ふるさと納税」制度の解説や申請手続きの手引きを、100本を超えるYouTube動画と毎週のセミナーで啓蒙しています。

これまでの実績として

- ・制度説明動画 100本以上（1万PV以上）
- ・打合せ自治体数 100以上（2020年1年間）
- ・打合せ企業数 100以上（2020年1年間）
- ・登壇セミナー数 100回以上
- ・延べ参加者数 3,000名以上

2021年度はさらに多くの自治体と企業のマッチングサービスを展開できるように推進していきます。

これまでの取り組みで、SDGsスタートアップ手法を活用し、リーンキャンパス、ロジックモデルの作成の後、実施施策の棚卸、フレームワークの見直しなどを行い、個別事業の見直しなどに役立っています。

c. 有限会社ウイルパワー(循環ビジネスの社会的役割の実施)

(報告：有限会社ウイルパワー 代表取締役 江川 健次郎氏)

- ・プロジェクトテーマは、循環ビジネスの社会的役割の実施で、
- ・有限会社ウイルパワーはリユースショップの運営と中古品・不要品の輸出事業を行っており、当社のビジネスを通じて地域の問題解決を行うこと。その活動原点は、生産（消費）が経済の主流を占めていますが、生産が動脈とすれば、循環する静脈がなければ社会はうまく回らないはず。しかし循環ビジネスの社会的認識は低いままもっと資源循環に関わる循環ビジネスの良さを知ってもらい、生産経済と同等に社会的価値と認知度を上げたい！思いが出发点です。
- ・今年度のSDGsビジネス目標としては、リユース・リサイクルビジネスを国内や開発途上国で積極的に展開し、廃棄物の提言及び循環経済（サーキュラー・エコノミー）の推進。プロジェクトとして行政まで巻き込みながら、地域の問題を資源循環によって解決するビジネスモデルの確立を目指す。

国内では市場価値がなく廃棄される家財品等を、大量生産で経済発展を遂げた日本特有の都市資源として、開発途上国において循環可能な流通システムの構築。品質の良い（Used in Japan）商品を安価で安定して流通させ、現地の生活向上と雇用を促進する。独自の貿易システム（海外リユースバン詰システム）の活用により、中古品特有の品種・サイズ・形状・個数が不揃いであるため生じる繁雑な輸出書類の作成をスマホ等活用による入力の簡易化及び画像データと紐づけ、積載物の可視化を行なうことで、健全な海外リユースを促進することです。

d.高野山真言宗大師 和歌山教区<三密教会>(SDG s 理念共有のハウスシェア、持続可能な<お家>活用)

(報告：高野山真言宗大師 和歌山教区<三密教会> 浅田慈照氏)

- ・ プロジェクトテーマは SDG s 理念共有のハウスシェア、持続可能な<お家>活用で、
高野山真言宗大師 和歌山教区<三密教会>は、平成 24 年に女性僧侶の育成をする
めの教会として立ち上げたグループで、約 3600 件の仏教系寺院をコアとして、
空き家の早期把握(空き家予備軍)、空き家利活用の普及・啓発の拠点化を当初の目標
して、2020 年度は、 持続可能な<空き家転活用> : 理念型シェアハウス< お家
より、おうち > プロジェクトとして

「誰でも・どこでも・いつでも」の3つの「できる」の空き家利活用。空き家を女性限定コンセプト型共同住居に転用活用。

空き家発見は目視が中心。しかし仏教寺院では、葬送儀礼時に空き家予測が可能であり、相続関係者の把握が容易。

- ①身近な「あの空き家」を早期に把握 ②個人が始められる小規模コンセプト型共同住居事業の実施検証③高野山真言宗寺院を組織化し、空き家利活用の普及啓発拠点化 ④支援者体制の充 を検討してきましたが、COVID-19 の影響もあり、

2021 年度は、 持続可能な<空き空間の活用> : 理念型ハウスシェア< お家より、おうち >

「誰でも・どこでも・いつでも」3つの「できる」の空間活用。空き家や空き部屋をSDG s 理念で運営。女性限定のハウスシェアに活用。

- ① それぞれの空き家・空き部屋を活用 ②それぞれの個々別を重視した空間活用の事業を推進 ③支援グループの育成を推進しようと検討しています。

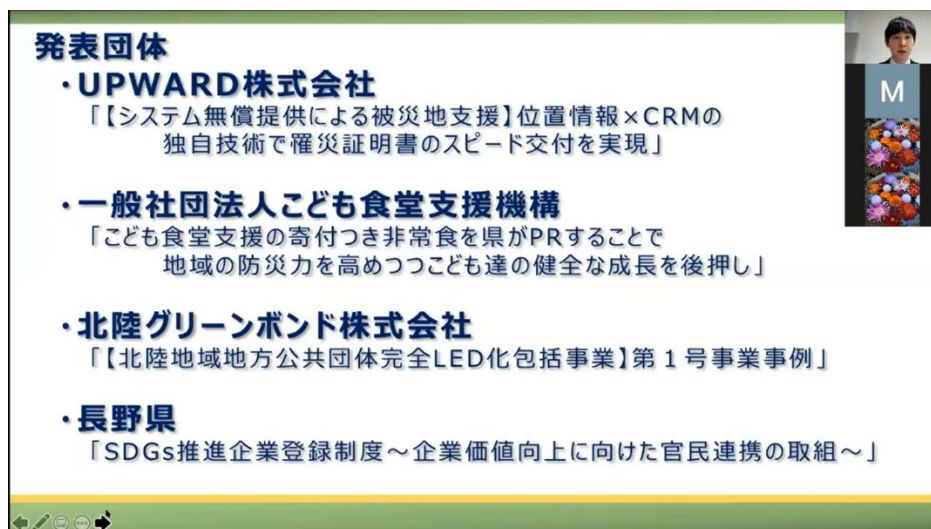
4. SDGs 最新動向

この情報交換会では、毎回その時点での SDGs に関する新しい動きをお伝えしようと思います。今回は SDGs 最新動向の例として 2 件、内閣府：地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム関連情報から地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム自治体職員向け官民連携講座&官民連携の優良事例紹介 4 件の概要と、一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ (SIMI) が 2021 年 3 月に発行した、[SIMI 社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン VERSION 2]の概要を説明しました。

4.1 地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム

①自治体職員向け官民連携講座は、自治体の課題に対して民間に助けて欲しいとの支援要請が少ない。地域課題解決に向けた効果的なニーズの提案方法に関して内閣府 北城参事官による説明です。

②官民連携の優良事例紹介は、令和 2 年の官民連携プラットフォームの活動報告 96 件の中から優良事例：5 件が選ばれました。その中の 4 件でとても参考になる事例です。



これらの内容は以下の LINK から録画を見ることができます。

<https://future-city.go.jp/platform/information/event210226.html>

4.2 SIMI 社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン VERSION 2

SDGs 事業評価システムについては、UNDP SDG インパクトスタンダード
SIMI 社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン VERSION 2、ESG 情報開示ハンドブックなどがありますが、今回はそのひとつとして、SIMI 社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン VERSION 2 の概要を紹介しました。

このガイドラインでは、社会的インパクト・マネジメントをいかに実践するか（「HOW」の問い）を中心に書かれていますが、「HOW」の前に「WHAT」を、「WHAT」の前に「WHY」を問うことが肝要だと SIMI では考えられています。

<概論編> では主に「WHAT」「なにを」に関して、

- 1章 社会的インパクトについて考える
- 2章 社会的インパクト・マネジメントとは
- 3章 社会的インパクト・マネジメントの実践とは

<実践編> では、「HOW」「いかに」に関して書かれています。

- 4章 インパクト・マネジメント・サイクルの回し方
- 5章 組織文化の醸成とガバナンスの構築
- 6章 社会的インパクト・マネジメントの実践ステップ

社会的インパクトとは

社会的インパクトとは、「短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的なアウトカム」のことです

<社会的インパクトのポイント>

- 長期的な取り組みによるものだけではなく、短期で生じる変化も含む。
- 大規模な取り組みによるものだけではなく、小規模のものや心理的变化（それが複数の人々へ波及する可能性がある場合は個人のものも含め）なども含む。
- 数値化（定量化）されたものだけではなく、定性情報でも表すことができる。
- ポジティブ、ネガティブの両方の変化を含む。

社会的インパクト・マネジメント

<定義>

社会的インパクト・マネジメントとは、事業や取り組みがもたらす変化や価値に関する情報を、各種の意思決定や改善に継続的に活用することにより、社会的インパクトの向上を目指す体系的な活動のことです。

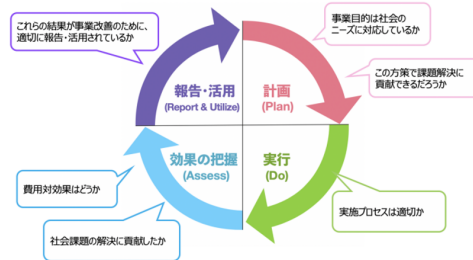
SIMI 社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン V2 概要

社会的インパクト評価

<定義>

社会的インパクト評価とは、「社会的インパクトを定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加えること」です。

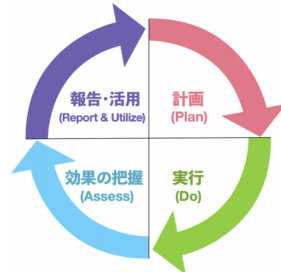
図表 3：インパクト・マネジメント・サイクルにおける評価



社会的インパクト評価により、ロジックモデルに代表される因果関係の整理や戦略の図示化と指標の設定、データ収集と分析などを通じて、これらの問いに関する情報を提供し、事業目的の達成に向けた「インパクト・マネジメント・サイクル」の実践を支援することが可能になると考えられます。

SIMI 社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン V2 概要

図表 6：インパクト・マネジメント・サイクルの4ステージ



第1ステージ：計画 (Plan)

本ステージでは、事業や取り組みの目的・目標を設定し、それを実現させるための戦略と計画を策定します。4つのステージのうち、本ステージが社会的インパクト・マネジメントにとってもっとも時間と労力を使うステージになります

第2ステージ：実行 (Do)

本ステージでは、事業や取り組みの実施を進めるとともに、その状況をモニタリングしながら、データを収集していきます。本ステージにおいては、事業実施を第1ステージの作業を土台として、細心の注意を払って着実にしていくことが肝要です

第3ステージ：効果の把握 (Assess)

本ステージでは、事業や取り組みの実施や調査を通して収集したアウトプット指標やアウトカム指標に関するデータを分析・検証します。本ステージの内容は事業や取り組みの実施が一段落ついたところでの実行が想定されますが、適時適切に改善を行っていく上では第2ステージと並行して行うことが有用になります

第4ステージ：報告・活用 (Report & Utilize)

本ステージでは、分析結果を開示・報告し、意思決定へ活用することで、事業や取り組みの改善や関係者とのコミュニケーションを図ります。本ステージにおける作業を通して第1ステージから第3ステージまでの学びを改めて整理し、次なるインパクト・マネジメント・サイクルにつなげていきます

ご興味のある方は、SIMI 社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン V2 概要の原文を以下から入手できます。

https://simi.or.jp/tool/practice_guide

<https://simi.or.jp/wp-content/uploads/2021/06/Social-Impact-Management-Guideline-ver.2.pdf>

本件についてご関心、ご要望がありましたら下記にお問合せください。

PMI 日本支部 SDGs 担当(sdgs@pmi-japan.net)